**柏槇**

この道に生えている7本のイブキの木々（学名Juniperus chinensis）は建長寺の開山である蘭渓道隆（1213–1278）によって植えられたと考えられています。蘭渓は1246年に禅仏教を教えるために日本へ渡来した中国の禅僧です。

言い伝えによれば、蘭渓は中国を発った時にイブキの種を持って行ったといいます。もう中国には戻らないだろうということを知っていた蘭渓は、故郷のことを思い返すために、その種から育った苗木を建長寺に植えたのです。

それ以来、イブキの木々は見事に成長していき、14世紀と15世紀に建長寺の大部分を破壊してしまった数々の火事も生き残りました。7本のイブキの中でも最も大きいものは高さが13メートルあり、円周は6.5メートルあります。これらのイブキの木々は鎌倉市によって指定保存樹木とされています。